



札幌種子工場より

札幌種子工場の近況をお知らせする前に、先ず、種子工場ではどんな作業をするか、その概要を申し上げます。

生産課で生産集荷された大小様々の種子類を始めとして、輸入種子は勿論、弊社で販売するすべての種苗は必ず一旦工場の倉庫に搬入されます。ここで種子の生命である発芽力(発芽試験)、乾燥度合(水分検定)、混合度合(純潔歩合検定)等の検定を行ない、乾燥不良のものは乾燥し、あるいは弊社独特の精選設備により完全純良種子として、発送指図があるまで、倉庫に保管されます。これら種子は他の食用や加工用穀物と異なり、たえず呼吸し発芽の条件が整えば直ちに活動を始める生命力のある生物ですので、保管の条件が悪ければ、急激に発芽力が低下いたします。それ故、私達はたえずこれら種子を生物として取扱ひ、保管倉庫の湿度、温度等を万全な処理により調整し、発芽力の低下を極力防止しております。

これらの保管種子は皆様のご注文あり次第迅速かつ正確に発送いたしておりますが、前以て需要者の皆様が取扱い易いよう

に小袋詰(二袋五〇〇増入)作業を行ないます。従って、皆様のご使用になる「雪印のたね」は、私達工場員の手を一度は必ず通っておるわけです。発送は輸送事情を考慮し、通信販売は別として、大体、北海道、東北地方の一部は札幌工場より、その他本州各府県へは松戸工場よりそれぞれ発送されております。以上種子工場作業の概要をお知らせいたしました。次に今年の主な種子の集荷、精選、包装等の状況について述べて、札幌種子工場だよりといたしました。

集荷作業

先月号に弊社生産課よりお知らせした通り、北海道産種子のうち、夏作のものは九、十号の夏期豪雨を伴う台風の影響を受け、生産地の乾燥作業が遅れたため、集荷作業も意のままにならず、皆様に多大の御迷惑をお掛けいたしました。が、秋季の天候は予想外に好天に恵まれ、集荷作業も極めて順調に進みました。現在大部分のものは搬入完了し、原料倉庫は満倉の状態となり、目下精選作業にてんてこまいというところ。また輸入種子については、輸入手続も順調で、十二月中には大部分の種子が入庫される見込みであります。

精選作業

オーチャード、チモシー 北海道産のトップを行くオーチャード、チモシー種子については、収穫乾燥期の悪天候のため、乾燥度合、腐敗、未熟粒の混入度合等非常に心配されましたが、採種農家の努力もあり、一部水害地帯を除いたほかは比較的良質のものが集荷されました。この程検定、精選

作業も完了し、若干色沢が例年より劣るようですが、発芽や生育に全く心配なく、予想以上の良質種子を提供できると確信しております。

青刈えん麦類 ビグトリー並びに雪印改良大豊、豊葉、一〇一号等のえん麦については、オーチャード、チモシー同様、成熟度が心配されましたが、色沢やや劣るといえ、なんら心配のない良質種子に精選されました。

雪印改良紫丸が、ルタバガ 今夏の被害が全く受けなかった関係もあり、非常に豊満な見事な種子に精選いたしました。

家畜ビート 計画より上廻る生産量のため、精選機一台増設してフル作業を行ない、現在精選完了いたしました。が、夏の台風の影響を受けて、例年よりやや細粒種子が多いようです。しかし、ビート種子は集合種子(三〜四個の種子が一包となっている)のため、実用的には全く心配はありません。なお、発芽を促進させ、立枯病を予防するため、本年から種子の消毒を当工場で行ない、消毒済種子を発送する計画であります。

ホウレン草 台風の被害さえなかつたら、本年度産ほど上質の種子はなかつたと思われたが、不幸にも長雨に逢い、圃上で芽出したもの、使用に堪えないほど変色したものと等であったため、精選には細心の注意を払い、長時間に亘り不良種子の除去に努めました。

豌豆類 本年最大の台風被害を受けた作物だけあって腐敗粒が多く、粒選減耗六〇〜七〇%に達するものもあり、手選、粒選に非常に苦勞しましたが、府県方面は少

量ながら発送完了いたしました。

菜豆、大豆 いずれも手選、粒選のものですが、秋季の好天に恵まれ、集荷も順調で良質種子に仕上げることができました。

その他の種子 いずれも被害程度の差こそあれ、完全な精選作業により、自信をもって提供できる優良種子に仕上げました。

種子の検定

精選作業も殆ど完了しましたので、三台のテルムスタットをフルに活用し、発芽試験に全力をあげて発芽不良による事故発生防止に万全の策を講じております。

包装作業

発芽試験完了後、包装作業に入りますが、本年より従来の紙袋詰に代わって、ポリエチレン袋を採用することになりました。これは種子の保存上にも良く、破袋事故も少なく、且つ取扱の便利なものです。大部分の種子はポリエチレン袋五〇〇増入として明春より発売いたします。

なお、この包装には三秒毎に一袋ずつ正確に秤量できる自動秤量機二台を増設、秤量の確を図ると共に作業能率の向上に努めることになりましたので、輸送事情の順調でない現今でもあり、種子のご手当は出来るだけ早目に計画されることがお互のためであります。

(仙波)

本年もあと僅かとなりましたが、本誌三月号より掲載してきました「会社だより」も札幌種子工場だよりで本年終了となりました。明年より再び、上野幌育種場を中心として、読者の皆様に種々状況をお知らせいたします。ご期待下さい。

(編集係)